

# 由利

天理教由利分教会

郵便番号 015-0862

由利本荘市小人町 159

電話 0184-22-0707

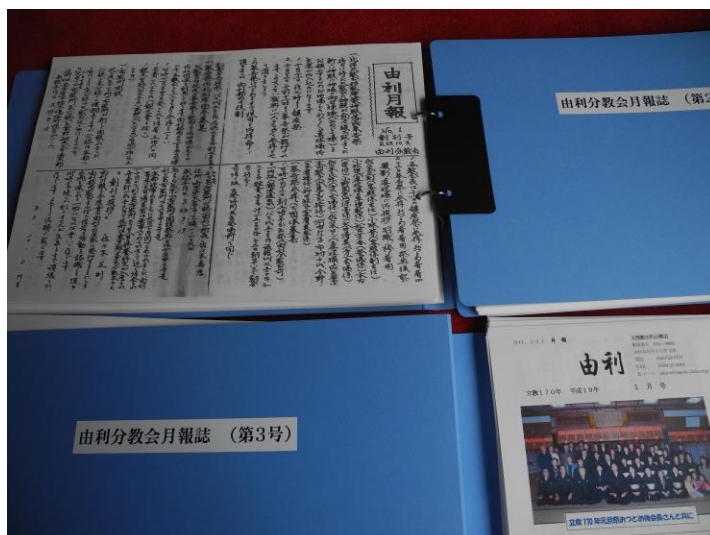
FAX 0184-22-1235

E メール yurivoshi@amail.plala.or.jp

立教185年

令和4年

4 月 号



## 由利月報誌完成

### 1ヶ月間の主な歩み

#### 三月

- 一七日 お墓地掃除
- 一八日 北蒲原分教会霊祭
- 一九日 北蒲原分教会月次祭
- 二〇日 委員部長の集い
- 二〇日 畠山家祓い
- 二二日 由利霊祭（朝づとめ後）
- 二二日 大教会月次祭
- 二四日 本部行き
- 二六日 本部月次祭、由利婦人会
- 三一日 教区婦人会

#### 四月

- 一日 コロナお願いづとめ 車祓い
- 二日 支部婦人会（九時半）
- 二日 婦人会勉強会2班
- 三日 支部例会（東滝沢分教会）
- 五日 お願いづとめ十二下り（十三時半）
- 九日 教祖誕生月次祭

## 今月の言葉

由利分教会長

佐々木 正 明

## 創立百二十周年を目前につて

かねてから共々に向かわせて頂いてきました当教会創立百二十周年記念祭が、いよいよ来月一日と目前に迫ってきました。

未だ記念祭に向かっている途上ではありますが、お陰様で皆様から同記念祭の記念事業に対してたくさんのご真実をお寄せ頂き、心より厚くお礼申し上げます。

この度の創立百二十周年活動を思いますと、なかなか他の系統の教会でも十年毎の記念祭を執行する教会は少ない中で、当教会では五十年位前から同記念祭を続けさせて頂き、この度の創立百二十周年の実施も部内会長、理事会のご賛同を頂き、記

念祭に向かつて記念活動を実行出来ました事は、本当に有難い事と思っております。

先ず私が特に切に感じさせて頂いているのは、この度の記念事業に対する皆様方の深いお心寄せです。この度の記念事業は、神殿屋根改修もある事から膨大な費用でしたが、部内教会は元より、用木、信者の方々が、生活がひつ迫するような現代の状況下にも拘わらず、精一杯のご真実をお寄せ下さいました。月次祭で会計報告をさせて頂きたいと思いますが、皆様方のご真実に対し感謝の申し上げようもない心であります。

もう一つは、この度の記念活動が、お道のより一層の動きにつながっているという事です。おさづけカード活用によるおさづけの実行の促進、おつとめの役割を決めてのおつとめ練習、記念祭に参拝頂くための大勢の方々への声かけ、全てがお道の上でこの上ない意味ある動きのように思います。

もうすぐ記念祭当日を迎えるわけですが、何とか参拝者の方々に喜んで頂き、大いに勇んだ記念祭になる事をお願い申し上げます、今月の私の言葉とさせて頂きます。

創立百二十周年記念事業として

## 由利月報誌完成

当教会創立百二十周年趣意書の記念事業としては特別に報告していませんでしたが、実は当教会としてこの旬にこれまでの月報をまとめて“月報誌”を作成する方向で、由正さんを中心に編集を進め、表紙の写真のような月報誌が作成されました。当月報は、佐々木正則七代会長が、昭和五十三年十月十三日から発刊を開始されました。発刊の挨拶の中で、『由利部内教会、用木、信者の活動を認識して頂き、交流を深める一助にしたい』という前会長の深い思いが書かれています。又『い

つまで続くかわかりませんが』とも書かれています。お陰様で約四十四年経った今でも発行を続けてさせて頂いております。

同月報の意味合いを思うと、真柱様や前真柱様のお入り込み等の大きな行事はもちろんの事、例えば約四十年前頃お道と空手の勉強のために毎年のようにインドの方々が来会されましたが、その詳細も掲載されていますし、又部内便りでも、おぢばがえり、おさづけ拝戴、年祭、その他の大きな行事が紹介されています。つまり由利部内の四十四年間の歩みが集約されていると言っても過言ではないと思います。又今回作成しなければ、紛失等で製本が困難になったのではとも思います。

由利の歴史の大切な資料として皆様にも御活用頂くことをお願い致します。月報誌完成の御報告と致します。

### 道の台の躍進を目指して 婦人会委員長が集い開催



去る三月二十日午前十時より、当教会において婦人会委員長の集い(山形、秋田会場として)が、大教会より鶴巻望美、石井くみ委員来会の

元開催されました。

鶴巻委員による北洋支部長様のご挨拶拝読後、真柱様年頭ご挨拶、一月大祭の表統領先生の神殿講話を受けての練り合いを三班に分かれて行いました。

四年後に行われる教祖百四十年祭に向かい、委員長として心の持ち方、つとめ方について再確認させて頂くとともに、勇んで通らせて頂きたいと決意を新たにして終了しました。

### 〇婦人会よりお知らせ

毎年続けております『感謝の心を日々に』のお供を頂き、誠に有り難うございました。総計一一五、〇九〇円を教祖御誕生祭に御供させて頂きたいと思っております。

“蒔いたる種はみな生える”と教えて頂いておりますが、コロナ禍によりなかなかおぢばがえりできない昨今であります。それでも、それが日々健康で通らせて頂けることに感謝申し上げ、本年も何卒宜しくお願い申し上げます。

### 〇創立百二十周年記念祭について

今月の言葉でも申し上げましたように、来月五月一日午前十時半より記念祭が執行されます。大勢の御参拝をお待ち申し上げます。

又、当日農協その他の駐車場をお借りする予定であります。車でおこしの方は、駐車場係の指示で駐車頂きますようお願い致します。

神 殿 講 話    中 村 善 正 理 事

開扉・献饌の男子の方は**十時**まで、女子の方は、**十時二十分**までおつとめを着用し、神殿にご集合下さい。

次女吉村ゆみが、三月十五日第二児(女児)を出産しました。命名「めい」です。よろしくお願い致します。